

戦後80年 いま伝えたい戦争の記憶

昭和20(1945)年8月15日に太平洋戦争が終戦を迎えてから、令和7(2025)年8月で80年が経過します。戦争を体験した人々が少なくなる中、その貴重な体験を次世代に引き継ぎ、平和の大切さを広く伝えるため、市民の皆さんから寄せられた戦争体験記を紹介します。

第4回 怖かったB29

しのみや たつお
四宮 達雄さん 昭和10年生まれ

私は、昭和10年に千葉市で生まれました。父は2、3人の従業員を雇って「テーラー四宮」という洋品店を営んでいましたが、私が5歳の時に亡くなると、母は私と3歳の妹を八日市場に住む祖母に預けて、東京へ働きに出ることになりました。

昭和16年12月、太平洋戦争が始まると、八日市場上空は米軍の爆撃機B29の通り道となりました。銚子沖から東京方面への行き帰り、B29は編隊を組んで、頭の上を何度も通過して行きました。下から見上げる機体は大きく黒く、たくさんのB29が飛んでいく様は恐ろしい光景でした。

成田の上空を飛ぶB29

東京は空襲で危ないと、祖母は母を東京から呼び戻しました。やがて、八日市場も危ないということで、昭和20年に私と母と妹の3人で現在の成田市豊住に移り住みました。しかし、B29はここでも上空を行き来していました。

辺り一面、田んぼのような場所を歩いている時にB29に見つかり、飛行機に付いた銃で「ダダダダッ」と攻撃してきます。立っていると目立ってしまうため、危ないと思ったら、すぐにその場に伏せるよう大人から言われていました。それでも見つかって銃で撃たれてしまい、亡くなった人もいました。「B29は、おっかない!」とても怖い思いをしました。

豊住に移住して間もなく、近所にB29が墜落したことがありました。その日は東京の板橋方面が空襲にあったと



四宮さんが描いた墜落したB29

いうことなので、その帰りの一機だったのかもしれませんが。夜、火だるまになって、豊住方面に向かって飛んで来ました。「危ない!」誰もが自分の家の方に落ちて来ると思ったほど、すごいスピードでその火だるまは迫って来ましたが、結局、現在の栄町矢口にある水田に落ちました。昭和20年4月13日のことでした。

当時10歳だった私は、友達を誘って家から歩いて30分ほどの場所にある墜落現場を見に行きました。そこには飛行機の残骸が横たわっていて、まだ煙が出ていました。パイロットは亡くなっていたということでした。

B29におびえて暮らすようなことは、今の平和な世の中では想像もできないと思いますが、二度とそのようなつらい思いはしたくないし、させたくないです。みんなで平和や戦争について、もっと考えて欲しいです。

市では、市民の皆さんから戦争体験記を募集しています。くわしくは市ホームページまたは文化国際課(☎20-1534)へ。



令和6年11月15日号 No.1519



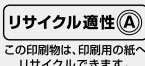
成田市のホームページ
<https://www.city.narita.chiba.jp>

*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

*本紙は11月6日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

編集後記

14ページに掲載している「いきいき美容教室」では、メイクの仕方やパーソナルカラーについて学べるそう。パーソナルカラーとは自分に似合う色のことで、知っておくと洋服選びなどに役立ちます。かくいう私は、秋らしい黄味や深みのある色が得意なタイプ。暦の上ではもう冬ですが、秋らしい気候になったのはつい最近。得意の色味を取り入れながら、まだまだ秋のファッションを楽しみたいと思います!



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。